

## 令和6年度第3回広報・広聴委員会 会議報告

日 時	令和7年3月5日（水）14：00～16：30
場 所	オンライン方式
出席者	藤吉委員長、宇野、鎌田、久保庭、富田、山田、 吉原、関根・内藤（事務局） 柳沢（次期事務局員、オブザーバー参加）
欠席者	宮田（次期事務局員、オブザーバー参加）

### ○開会

### ○報告事項

#### （1）令和6年度第3回役員会結果報告／次期体制について

- ・3月1日（土）に開催された役員会の結果について、事務局より報告。次年度の体制や決算・予算等の状況を共有した。
- ・次年度の全国大会（天草）の日程・会場等については、早期にホームページ等で周知していく方向で、大会・研修委員会と調整していくことを確認した。
- ・広報・広聴委員会の次期体制について、現時点の状況を共有した。退任する委員の後任候補者について、引き続き検討・情報交換していくこととした。

### ○協議事項

#### （1）会報と会誌のあり方について

- ・本部事務局体制への移行に伴う事務・事業の簡素化・効率化や効果的な予算執行等の観点から、次年度以降の会報と会誌のあり方について、事務局より会誌を2冊刊行した場合や会報を完全電子化した場合等における利点と課題、必要な予算等を提示し、説明を行った後、意見交換を行った。委員から出された主な意見は次の通り。
- ・学術的に価値のある内容は、きちんと活字化していくべき。安易にインターネット公開のみに走るべきではない。
- ・近畿部会の会報・月報はONLINE ISSNを取得している電子ジャーナルであり、単に記事をインターネット公開しているわけではない。次期の事務処理能力を考えると、紙媒体をどこまで維持できるか不安がある。会報・会誌の今後のあり方として、電子化というのも一つの方法である。
- ・会報・会誌それぞれの役割や本当に掲載が必要な内容をまず精査し、その上であり方について検討していくべきである。
- ・現行の会報（大会特集号）については、大会・研修委員会が配付する大会冊子との重複を感じる。報告者は、大会冊子にも寄稿し、大会終了後にはタイトなスケジュールの中で会報の記事を執筆する必要に迫られる。報告者・委員会の双方にとって負担が大きいため、会報・会誌には大会冊子では載せられないものを集約して掲載するなど、工夫が必要。
- ・公文書館機能普及セミナーは、毎回報告内容や参加記等を載せる必要はなく、記録だけ

残せばよいのではないか。

- ・紙媒体の廃止は機関会員への影響が大きく、全史料協に加入しているメリットが物理的に感じられないので、会員の減少につながるのではないか。インターネット記事では(メールで共有されるので)組織によっては非常勤職員に情報が来なくなる、主体的に情報を取りに行こうとする者以外には読まれなくなるなどの問題もある。
- ・会誌2冊にすると、投稿機会が増加するとともに投稿論考の査読に余裕が生まれ、執筆者・委員会双方にとってメリットがあるのではないか。
- ・以上の協議結果を踏まえ、本件については、新体制での開催となる次回委員会において、引き続き協議し、場合によっては役員会レベルでの精査も行っていくこととした。

## (2) 令和7年度会報計画(会報第118号・119号)

- ・令和7年9月末刊行の会報118号については、令和6年11月開催のEASTICAの出席レポートと令和7年1月開催の公文書館機能普及セミナーin大阪の開催記・参加記を掲載する予定。その他については、次回の委員会で構成を決定する。

## (3) 会誌『記録と史料』第36号の構成

- ・会誌で取り扱う候補として、以下の意見が出された。
- ・特集：阪神・淡路大震災30年、戦後80年、その他35号で扱ったような実務に直結する内容  
※10年前の戦後70年の際には特集が組まれている。
- ・アーキビストの眼：秋田県の戦没者名簿の話題
- ・世界の窓：ICAバルセロナ大会の参加レポート  
※副会長事務局において会員の参加費を助成する事業を実施する予定であるので、助成を受けた会員に執筆してもらうことも検討する。
- ・ネットワーク：AIを活用した評価選別、郡山市歴史情報博物館の開館、その他周年記事等
- ・書評と紹介：各自治体が刊行している新型コロナウイルス対応記録集など
- ・全史料協発足50周年記念事業として、記念誌を検討しているのであれば、会誌を丸々記念号として刊行するのも選択肢の一つではないか。
- ・以上の協議結果を踏まえ、本件については、メーリングリスト等を活用した意見交換を継続するとともに、新体制での開催となる次回委員会において、引き続き協議して構成を決定していく。

## ○その他

- ・退任する委員・事務局員、新任の事務局員からそれぞれひとつずつあいさつを行った。

以上

**【会議後の委員補足事項】**

※会議終了後に、会議の補足として委員から出された意見等。

- 有志で実施している「認証アーキビストが一堂に会する会」について、業界情報として捕捉する。具体的には、「ネットワーク」等で取り扱うことを検討する。
- その他、業界情報として、燻蒸剤（エキヒュームSの販売終了）の話題、阪神・淡路大震災に際して非常勤職員が中心的役割を担った資料レスキューボランティアの話題、などについても今後会誌への掲載候補として検討していく。